

## 1939年男鹿地震の写真と映像資料に関する文献調査

水田敏彦\*(秋田大学地方創生センター)・鏡味洋史

### §1. はじめに

1939年(昭和14年)男鹿地震は男鹿半島付近で発生したM6.8の地震である。男鹿半島の頸部に被害が集中し全滅した集落もあり、斜面崩壊も多く人的被害につながっている。筆者らはこの地震をとりあげ既往の被害調査報告および新聞記事による文献調査を進め、被害分布を明らかにしてきた<sup>1)</sup>。また秋田県公文書館収蔵の行政資料を発見し、震災対応の時系列を明らかにすることができた<sup>2)</sup>。さらに、踏査報告を再読し各調査者の踏査の足跡を明らかにした<sup>3)</sup>。本地震では各調査報告書や新聞に写真が多用され、土木学会による映像<sup>4)</sup>も残されている。写真・映像資料は文章や被害統計では表現できない情報を多く含んでおり、本研究ではこれらの写真と映像資料に着目して震災の状況を明らかにすることを試みる。

### §2. 1939年男鹿地震の概要

本地震の被害は死者27名、住家全潰479棟等となっている。これまでに明らかにした被害概要を図1に示す。住家の被害は男鹿半島中央部に広く分布し、道路や鉄道被害についても広範囲に発生していた。

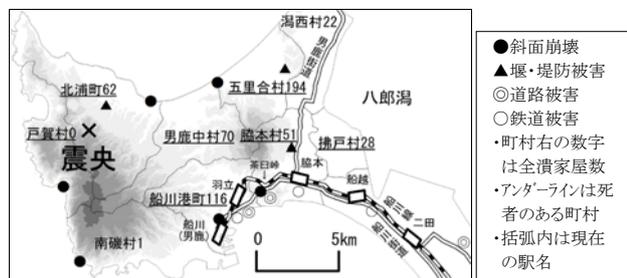


図1 1939年男鹿地震による被害

### §3. 写真と映像が掲載されている資料

**行政の報告書・震災誌:** 男鹿地震の報告書については秋田県がまとめた男鹿地方震災誌<sup>5)</sup>があり、震災3年後に発行している。被災状況、救護救援、復旧復興活動に関する120枚の写真が掲載されている。また、秋田県林務課がまとめた男鹿地方震災関係図<sup>6)</sup>に13枚の林地崩壊に関する写真が残されている。

**被害調査報告:** 男鹿地震に関する現地踏査は複数の機関で行われており、被害報告が学術雑誌に掲載されている。地震研究所彙報には萩原<sup>7)</sup>の全般的な報告があり14枚の被害写真が掲載されている。宮部・武井<sup>8)</sup>は瀧西村の亀裂と北浦町の地滑りについて報告しており4枚の被害写真が掲載されている。大塚<sup>9)</sup>は地質学的観察から瀧西村や五里合村につい

て地割報告をしており4枚の被害写真が掲載されている。また、建築雑誌には河野・他<sup>10)</sup>が民家や小学校の建物被害について報告をしており74枚の被害写真が掲載されている。土木学会誌には現地調査に基づく2編の報告があり、高井<sup>11)</sup>は土砂災害と道路・鉄道の被害報告をしており16枚の被害写真が掲載されている。松村<sup>12)</sup>は船川港、土崎港および溜池の被害について報告しており24枚の被害写真が掲載されている。その他、地震には東京帝国大学地震学教室の岸上・他<sup>13)</sup>の踏査報告が掲載され2枚の被害写真が、地学雑誌には商工省地質調査所の遠藤<sup>14)</sup>の報告が掲載され12枚の被害写真が残されている。

**郷土資料:** 男鹿市若美図書館に男鹿地震記戸村記録<sup>15)</sup>があり、被害と復旧活動の写真が7枚収められている。その他、日本赤十字社秋田県支部百年史<sup>16)</sup>に2枚、秋田県警察史<sup>17)</sup>に2枚の写真が掲載されているが、男鹿地方震災誌<sup>5)</sup>と同じものである。

**新聞:** 秋田の代表紙である秋田魁新報には地震発生翌日の号外から5月21日まで、地震直後の被害状況や復旧復興活動の写真が40枚掲載されている。

**写真集:** 男鹿地震の被害を記録した男鹿の大地震写真集<sup>18)</sup>が秋田県立図書館に保存されている。被害写真が14枚収められている。

**映像:** 土木学会の調査団が撮影した映像が残されている<sup>4)</sup>。当時の土木学会文化映画委員会が震災翌年の1939年に16分2秒の記録映像(無音)を企画・制作したもので、被害や復旧の様子が記録されている。

### §4. おわりに

1939年男鹿地震の写真と映像資料の文献調査を行い、収録されている資料を整理した。写真資料のほとんどは被写体の説明が記され、撮影場所がわかるものが多い。写真や映像資料は被害の惨状を視覚的に今に伝え、震災の状況を知る有用な資料であり、今後は撮影位置の空間分布図なども作成したい。

【文献】1)水田敏彦・鏡味洋史:1939.5.1 男鹿地震の被害分布に関する文献調査,日本建築学会技術報告集,16,33,817-820,2010. 2)水田敏彦・鏡味洋史:1939.5.1 男鹿地震の秋田県における震災対応に関する文献調査,日本建築学会技術報告集,17,36,763-766,2011. 3)鏡味洋史・水田敏彦:1939年男鹿地震の踏査報告の足跡をたどって,東北地域災害科学研究,54,181-186,2018. 4)梅津愛ほか4名:昭和14年秋田県男鹿地震における震災後貴重映像の発掘とその活用,土木学会第71回年次学術講演会,CS10-002,2016. 5)秋田県:昭和一四年男鹿地方震災誌,591pp,1942. 6)秋田県林務課:男鹿地方震災関係図,秋田県公文書館蔵,557pp,1949. 7)萩原尊禮:昭和14年5月1日男鹿地震調査概報,東京大学地震研究所彙報,17-3,627-637,1939. 8)宮部直巳・武井柳吉:昭和14年5月1日男鹿島地震の地変に就て,東京大学地震研究所彙報,17-3,638-649,1939. 9)大塚彌之助:昭和14年5月男鹿半島地震の地変,東京大学地震研究所彙報,17-3,650-660,1939. 10)河野輝夫・高敷良二・田治辰雄:昭和14年5月1日男鹿半島地震に於ける建築物の被害に就て,建築雑誌,53(653),1022-1040,1939. 11)高井信一:秋田県下の震災を視察して,土木学会誌,9,1007-1016,1939. 12)松村孫治:秋田県下の震災を視察して,土木学会誌,9,1017-1027,1939. 13)岸上彦彦ほか4名:昭和14年5月1日男鹿地震の踏査,地震,11,265-277,1939. 14)遠藤六郎:秋田県男鹿半島の地震に就いて(其一),地学雑誌,51,442-459,1939. 15)拂戸小学校職員調査編輯:男鹿地震記戸村記録,男鹿市若美図書館蔵,67pp,1939. 16)日本赤十字社秋田県支部:百年史,231-234,1988. 17)秋田県警察:秋田県警察史(下巻),419-430,1971. 18)秋田県:男鹿の大地震写真集,秋田県立図書館蔵,図版14枚,(発行年不明)